

# パンタール通信

南北米福地開発協会 会報 2005年11月1日発行 第26号



2005.09.16

## パラグアイ大統領官邸

パラグアイを訪問して

レダはパラグアイ共和国のチャコ地方に位置しブラジル、ボリビア、パラグアイにまたがる世界最大の湿原パンタールに属する生態系の宝庫です。チャコは人口過疎地帯で日本国土の五十%以上に十数万人しか住んでいないところです。

その地域にはインディヒナの人口が部落を多数作っている。彼らの生活は非常に貧しく、教育も十分でなく、衛生状態も劣悪です。

パラグアイ政府も国民全体の生活向上に関心を持ってはいても、現状ではなかなかチャコ地方までは手を差し伸べられない国の状況とのことです。そのため、チャコ地方に住むインディヒナの村の援助はボランティア団体の支援に待つ以外にない。先日、会った教育省の副大臣が話しておりました。

しかし、現実、パラグアイで活動する日本のボランティア団体は殆ど無いとパラグアイのCSを訪ねた時、話を聞きました。

南北米福地開発協会は援助の拠点をパラグアイに属するパンタール地域に定め、その地域のインディヒナの村の発展のためにどのようにすべきかに力を注いで来ました。

十月三十日にパラグアイ国大統領一行が日本を訪れ、パラグアイと日本との間の経済交流について話し合うことになっています。

是非、成功し、パラグアイが日本と

共に相互に発展して行く道が出来る事を期待しています。また、この機会に南米のボランティアにも関心を持って頂けたらと思います。

レダでは試験農場を始め、米造りに入りました。また、パラグアイ原産の貴重な薬草、ステビアの情報を集め、出来るだけ早い時期にステビアの栽培をレダで始める準備を整えています。九月中旬にはアスンシオン近郊にある農業省の研究所を訪問し、研究主任から話を聞き、またステビアの葉を生かし、甘味料を造る工場を訪問して来ました。ステビアは甘味料として、砂糖の三百倍近い甘みがあり、しかもノンカロリーで、糖尿病患者に人気があります。

しかし、最近では甘味料としてだけでなく、ステビアの茎から生成される製品が土壌改良と農業資材として環境を保護しながら、農業の発展を促進できると脚光を浴びています。パラグアイ農業省でもステビア栽培を推進しており、レダにて栽培が成功すれば、その成果を近隣の村に教育する計画です。インディヒナの村の経済復興の道に成るのではと期待しています。インディヒナの村の援助は物資を送ることより、彼ら自身で自活できる道を示す事のほうが大事であり、それが将来の子供達の教育の改善にも貢献できると思います。

柴沼邦彦記





十月に入ってレダで生活する住民の為、また今後、移住して行く家族のための食料確保を目的に稲作を試験的に始めました。今回、植えた水田の大きさは五つの四十m×四十mです。

既に四年前に三十mに稲を植え、収穫をしているが今回はその規模を大きくし、稲を育てるにあたっての問題点を研究することになります。

レダ開発の代表である中田実氏指導の下、農業を担当している船見巨氏が中心になって進めております。

パラグアイでは日系移民の方がラパス移住地で米造りに成功し、日本で造る米と同じくらい美味しいと評判であるが今回のように、チャコ地方、パンタール地域、レダでの稲作は初めての経験で、多くの難関を越えなければならぬと覚悟し、進めているとの事です。

レダ開発も既に六年を終え、七年目に入りました。日本からの支援により、進められて来ましたが今後は今日までの経験を元に、本格的に移住者を迎えて、自立できる基盤造成をなすと中田代表を中心として、研究し活動を進めております。その中の一つがパラグアイ原産の薬草、ステビアです。



農林省ステビア研究所所長 2005.09.15



ステビアの苗 2005.09.15

ステビアは南米の北部が原産地と言われパラグアイのアマンバイやブラジルとパラグアイの国境付近のイグアス高地に自生しています。ステビアの葉は何世紀の間、ブラジルとパラグアイに住む原住民の人々に甘味料として用いられてきました。多年生草木で、丈は七十cmから1mほどに成ります。乾草から甘味成分を抽出し、低カロリー（砂糖の九十分の一）の甘味料（砂糖の300倍）として用いられています。

しかし、近年、甘味料としてのステビアの利用だけでなく、農業資材としてステビアを用いる農法が日本で開発されています。環境に優しい農法として脚光を浴びてきています。

ステビアは有機的に使用すると微生物が集まり、土着菌が活発になり、土壌を蘇らせます。また、作物の活力を高め発根を促進し、有害菌を殺し病害虫に侵されにくく、造られた作物も糖度を高め自然の美味しさをまし、抗酸化作用により日持ちが良くなることにつながっている。

自然に優しい農業を目指す協会としてステビアをレダにて栽培し、それを利用して環境保護農場を目指せばと研究中です。また、パラグアイ農業研究所は全面的に支援を約束してくれています。



パンタナールエコツアーの拠点としてのレダ



カーディナル (和名 紅冠鳥)



カピバラの家族



アメリカダチョウのツガイ



アナコンダ

南北米福地開発協会 事務局  
 〒113-0001 神奈川県川崎市高津区溝口三十一 十五  
 電話 ○(四四) 八二九 二八二二  
 ファックス ○(四四) 八二九 二八二〇  
 地球環境を保護し、絶滅の危機に瀕している希少生物保護を目的とする当協会への会員を募集しています。  
 会費は月五〇〇円で、会員の方には毎月、パンタナール通信を送ります。



支流にて甲羅干しをするワニ

2005.09.05